

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月12日
【四半期会計期間】	第96期第2四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	三井製糖株式会社
【英訳名】	Mitsui Sugar Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 雑賀 大介
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋箱崎町36番2号
【電話番号】	(03)3663-3111
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 益本 広史
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋箱崎町36番2号
【電話番号】	(03)3663-3111
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 益本 広史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第2四半期連結 累計期間	第96期 第2四半期連結 累計期間	第95期
会計期間	自2018年 4月1日 至2018年 9月30日	自2019年 4月1日 至2019年 9月30日	自2018年 4月1日 至2019年 3月31日
売上高 (百万円)	51,020	56,861	105,274
経常利益 (百万円)	4,971	3,054	10,314
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	3,143	1,677	6,862
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,120	1,878	6,902
純資産額 (百万円)	91,356	93,086	95,063
総資産額 (百万円)	126,562	138,965	139,867
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	117.71	63.90	257.00
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.10	59.85	61.11
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	11,236	12,723	12,081
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	6,648	2,568	20,652
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	5,228	4,241	1,050
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	23,822	20,726	14,825

回次	第95期 第2四半期連結 会計期間	第96期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年 7月1日 至2018年 9月30日	自2019年 7月1日 至2019年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	45.45	15.44

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

##### 経営成績

当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、「F T Y 720」受取ロイヤルティの一部収益認識を見合わせた結果、前年同期比減益となりましたが、国内砂糖事業が堅調に推移したこともあり営業利益は前年同期を大きく上回りました。

昨年来行ってきた海外投資ののれん償却負担や、海外粗糖相場低迷によるタイ国関連会社の業績が悪化したことから経常利益は前年を下回りましたが、実態としての営業力を示すEBITDAは62億円を達成し、引き続き安定的なキャッシュ創出力は維持しております。

#### (砂糖事業)

海外粗糖相場につきましては、期初は12セント台でスタートしたのち、圧搾を終了した北半球の潤沢な在庫が伝えられると、11セント前半まで下落しました。その後、12セント台まで回復しましたが、インドの輸出振興政策や主要消費国の需要低迷など需給緩和拡大の報道が相次ぎ、9月中旬には、約1年ぶりとなる10セント半ばまで下落しました。その後、投機資金の流入などから値を戻し、11セント後半で当第2四半期末を迎えました。

販売面では、製菓製パン向けの出荷が好調に推移しましたが、7月初旬の長雨の影響で、飲料ユーザー向けの出荷が振るわず、販売量は前年同期を下回りました。このような状況下、引き続き適正販売価格帯の維持に注力いたしました。コスト面では、物流費や燃料費の上昇、安定操業のための設備更新による減価償却費の増加などがありましたが、適切な原料糖調達に努めた結果、原料費が改善し、営業利益は前年同期を上回りました。

連結子会社では、生和糖業(株)で天候不順により生産量が減少し、北海道糖業(株)では販売単価が低下し、販売量が減少しましたが、前第3四半期末にSIS' 88 Pte Ltdを連結子会社化したことから増収増益となりました。

以上の結果、砂糖事業全体で、売上高は45,978百万円（前年同期比13.8%増）、営業利益は2,319百万円（前年同期比192.4%増）となりました。

#### 期中の砂糖市況

国内市中相場（日本経済新聞掲載、東京上白大袋 1 kg当たり）

期を通じて187円～188円で推移

海外粗糖相場（ニューヨーク砂糖当限、1ポンド当たり）

始値 12.53セント 高値 12.84セント 安値 10.68セント 終値 11.92セント

#### (フードサイエンス事業)

フードサイエンス事業につきましては、パラチニットはキャンディ向けやその他製菓向けが好調に推移し、パラチノースはスポーツコンセプトが評価され、大手ユーザーの新製品に採用されるなど、営業利益は前年同期を上回りました。

連結子会社では、(株)タイショーテクノスは新工場立ち上げに伴う初期費用発生等により減益となりました。また、ニュートリー(株)は当期初に譲り受けた流動食事業により増収となりましたが、諸経費の増加により減益となりました。

以上の結果、フードサイエンス事業全体で売上高は9,900百万円（前年同期比2.1%増）、営業利益は286百万円（前年同期比22.7%減）となりました。

#### (不動産事業)

不動産事業につきましては、岡山市で昨年11月に物流倉庫の賃貸を開始したこと等により売上高・営業利益ともに前年同期を上回り、売上高は981百万円（前年同期比6.0%増）、営業利益は472百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は56,861百万円（前年同期比11.4%増）、営業利益は3,078百万円（前年同期比89.9%増）、経常利益は3,054百万円（前年同期比38.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,677百万円（前年同期比46.6%減）となりました。

#### 財政状態

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比901百万円減少し138,965百万円となりました。連結貸借対照表の主要項目ごとの主な増減要因等は次の通りであります。

##### ）流動資産

流動資産は、前連結会計年度末比690百万円増加し54,549百万円となりました。これは主として、現金及び預金の増加5,600百万円、原材料及び貯蔵品の増加1,734百万円等があった一方で、商品及び製品の減少7,910百万円等があったことによるものであります。

##### ）固定資産

固定資産は、前連結会計年度末比1,591百万円減少し84,416百万円となりました。これは主として、建設仮勘定の増加1,202百万円等があった一方で、建物及び構築物の減少325百万円、機械装置及び運搬具の減少480百万円、のれんの減少434百万円、投資有価証券の減少641百万円、関係会社出資金の減少338百万円等があったことによるものであります。

##### ）負債

負債は、前連結会計年度末比1,074百万円増加し45,879百万円となりました。これは主として、未払法人税等の増加920百万円、その他流動負債の増加2,776百万円があった一方で、支払手形及び買掛金の減少912百万円、借入金の減少473百万円、繰延税金負債の減少784百万円等があったことによるものであります。

##### ）純資産

純資産は、前連結会計年度末比1,976百万円減少し93,086百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益1,677百万円、剰余金の配当1,468百万円、自己株式の取得2,304百万円等があったことによるものであります。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）の残高は20,726百万円となり、前連結会計年度末と比較して5,900百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は12,723百万円（前第2四半期連結累計期間は資金の増加11,236百万円）となりました。

これは主として、税金等調整前四半期純利益3,485百万円、減価償却費2,566百万円、たな卸資産の減少6,600百万円等により資金が増加した一方で、法人税等の支払1,305百万円等により資金が減少したことによるものであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は2,568百万円（前第2四半期連結累計期間は資金の減少6,648百万円）となりました。

これは主として、有形固定資産の取得による支出2,963百万円等により資金が減少したことによるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は4,241百万円（前第2四半期連結累計期間は資金の減少5,228百万円）となりました。

これは主として、自己株式の取得による支出2,304百万円、配当金の支払1,464百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は550百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因についての分析

当社グループは、主力の砂糖事業において、原料となる粗糖が相場商品であること、また製品価格も競争や市場環境等により変動する場合があります、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。このような事業環境下、当社では適切な原料糖調達と適正販売価格帯の維持に努めてまいりました。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、原料糖の購入費用のほか、製造費、販売費及び一般管理費等の営業費用であります。投資を目的とした資金需要は、設備投資等によるものであります。

短期運転資金は自己資金及び金融機関からの短期借入を基本としており、設備投資や長期運転資金の調達につきましては、社債及び金融機関からの長期借入を基本としております。

なお、当第2四半期連結累計期間末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は18,445百万円となっております。

### 3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,333,480	28,333,480	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	28,333,480	28,333,480	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	28,333,480	-	7,083	-	1,177

(5)【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
三井物産株式会社 (常任代理人 資産管理サービス 信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目1-3 (東京都中央区晴海一丁目8-12晴海アイ ランドトリトンスクエアオフィスタワーZ 棟)	8,609,070	33.50
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11-3	1,147,800	4.47
豊田通商株式会社	愛知県名古屋市中村区名駅四丁目9-8	1,000,000	3.89
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口9)	東京都中央区晴海一丁目8-11	661,200	2.57
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8-11	568,900	2.21
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1-2	486,064	1.89
双日食料株式会社	東京都港区六本木三丁目1-1	384,000	1.49
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀 行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A. (東京都千代田区丸の内二丁目7-1)	347,800	1.35
日本トラスティ・サービス信託銀 行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海一丁目8-11	339,800	1.32
三井住友信託銀行株式会社 (常任代理人 日本トラスティ・ サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目4-1 (東京都中央区晴海一丁目8-11)	322,000	1.25
計	-	13,866,634	53.95

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,631,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 25,624,400	256,244	-
単元未満株式	普通株式 77,480	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	28,333,480	-	-
総株主の議決権	-	256,244	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権の数2個)含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
三井製糖株式会社	東京都中央区日本橋箱崎町 36 - 2	2,631,600	-	2,631,600	9.29
計	-	2,631,600	-	2,631,600	9.29

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	15,232	20,832
受取手形及び売掛金	9,861	10,119
商品及び製品	19,473	11,562
仕掛品	1,835	1,327
原材料及び貯蔵品	4,454	6,189
その他	3,007	4,524
貸倒引当金	5	5
流動資産合計	53,859	54,549
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	40,579	39,889
減価償却累計額	25,199	24,834
建物及び構築物(純額)	15,380	15,055
機械装置及び運搬具	83,270	83,774
減価償却累計額	65,215	66,200
機械装置及び運搬具(純額)	18,054	17,573
工具、器具及び備品	2,601	2,688
減価償却累計額	2,088	2,135
工具、器具及び備品(純額)	513	552
土地	18,436	18,148
リース資産	912	915
減価償却累計額	492	539
リース資産(純額)	420	375
建設仮勘定	459	1,662
有形固定資産合計	53,265	53,367
無形固定資産		
のれん	5,388	4,953
その他	3,282	3,063
無形固定資産合計	8,670	8,016
投資その他の資産		
投資有価証券	12,786	12,145
関係会社出資金	2,128	1,789
長期貸付金	23	21
退職給付に係る資産	501	637
繰延税金資産	1,008	1,019
その他	7,681	7,471
貸倒引当金	58	51
投資その他の資産合計	24,071	23,032
固定資産合計	86,008	84,416
資産合計	139,867	138,965

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,408	8,495
短期借入金	4,850	136
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
1年内返済予定の長期借入金	1,120	1,860
リース債務	97	98
未払費用	3,799	3,533
未払法人税等	1,411	2,331
役員賞与引当金	52	20
資産除去債務	108	70
その他	4,588	7,365
流動負債合計	35,437	33,913
固定負債		
長期借入金	2,550	6,050
リース債務	351	300
繰延税金負債	1,589	805
役員退職慰労引当金	268	204
退職給付に係る負債	2,812	2,836
資産除去債務	305	306
その他	1,489	1,463
固定負債合計	9,366	11,965
負債合計	44,804	45,879
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,083	7,083
資本剰余金	1,291	1,291
利益剰余金	79,157	79,366
自己株式	2,910	5,215
株主資本合計	84,622	82,526
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	735	544
繰延ヘッジ損益	36	74
為替換算調整勘定	99	137
退職給付に係る調整累計額	180	161
その他の包括利益累計額合計	853	642
非支配株主持分	9,587	9,917
純資産合計	95,063	93,086
負債純資産合計	139,867	138,965

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	51,020	56,861
売上原価	39,678	43,257
売上総利益	11,342	13,603
販売費及び一般管理費		
配送費	2,477	2,520
給料及び賞与	1,882	2,135
役員賞与引当金繰入額	30	20
退職給付費用	93	85
その他	5,237	5,763
販売費及び一般管理費合計	9,720	10,525
営業利益	1,621	3,078
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	48	86
受取ロイヤリティー	3,934	926
雑収入	119	105
営業外収益合計	4,103	1,119
営業外費用		
支払利息	32	41
固定資産除却損	32	30
設備撤去費	103	116
持分法による投資損失	485	845
雑損失	99	108
営業外費用合計	753	1,143
経常利益	4,971	3,054
特別利益		
投資有価証券売却益	-	147
固定資産処分益	-	14
受取保険金	11	254
持分変動利益	88	-
補助金収入	-	33
特別利益合計	99	450
特別損失		
固定資産圧縮損	9	-
災害による損失	51	-
環境対策費	-	19
特別損失合計	61	19
税金等調整前四半期純利益	5,009	3,485
法人税、住民税及び事業税	1,619	2,080
法人税等調整額	82	710
法人税等合計	1,702	1,369
四半期純利益	3,306	2,116
非支配株主に帰属する四半期純利益	163	439
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,143	1,677

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	3,306	2,116
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8	183
繰延ヘッジ損益	30	72
為替換算調整勘定	-	269
退職給付に係る調整額	7	23
持分法適用会社に対する持分相当額	217	166
その他の包括利益合計	185	237
四半期包括利益	3,120	1,878
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,953	1,466
非支配株主に係る四半期包括利益	167	411

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,009	3,485
減価償却費	2,222	2,566
災害損失	51	-
固定資産処分損益(は益)	2	14
固定資産除却損	32	30
投資有価証券売却損益(は益)	-	147
持分法による投資損益(は益)	485	845
持分変動損益(は益)	88	-
のれん償却額	174	374
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	6
役員賞与引当金の増減額(は減少)	41	32
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	123	145
受取利息及び受取配当金	49	87
支払利息	32	41
補助金収入	-	33
受取保険金	11	254
固定資産圧縮損	9	-
売上債権の増減額(は増加)	20	303
たな卸資産の増減額(は増加)	8,019	6,600
仕入債務の増減額(は減少)	1,238	759
未払消費税等の増減額(は減少)	772	721
その他	403	868
小計	14,132	13,749
利息及び配当金の受取額	49	87
利息の支払額	32	41
補助金の受取額	-	33
保険金の受取額	11	254
災害損失の支払額	-	54
法人税等の支払額	2,924	1,305
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,236	12,723
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	200	300
有形固定資産の取得による支出	3,972	2,963
有形固定資産の売却による収入	3	314
投資有価証券の取得による支出	2,824	276
投資有価証券の売却による収入	-	177
事業譲受による支出	-	50
無形固定資産の取得による支出	38	33
その他	17	36
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,648	2,568

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	800	309
短期借入金の返済による支出	3,800	5,020
長期借入れによる収入	-	5,000
長期借入金の返済による支出	574	760
自己株式の取得による支出	2	2,304
配当金の支払額	1,597	1,464
非支配株主への配当金の支払額	1	80
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	1,091
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	-	1,221
その他	52	50
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,228	4,241
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	13
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	640	5,900
現金及び現金同等物の期首残高	24,462	14,825
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 23,822	1 20,726

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入等に対する連帯保証は、次の通りであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
Kaset Phol Sugar Ltd.	3,027百万円	6,634百万円
(株)ホクイー	13	13
計	3,040	6,647

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
現金及び預金勘定	24,228百万円	20,832百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	406	106
現金及び現金同等物	23,822	20,726

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 定時株主総会	普通株式	1,602	60.0	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年10月31日 取締役会	普通株式	1,468	55.0	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

3. 株主資本の金額の著しい変動  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月25日 定時株主総会	普通株式	1,468	55.0	2019年3月31日	2019年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年10月31日 取締役会	普通株式	642	25.0	2019年9月30日	2019年12月6日	利益剰余金

### 3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2019年5月14日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得を2019年9月25日に完了しました。この自己株式の取得による増加1,000,000株、2,304百万円を四半期連結財務諸表に含んでおります。この取得等により、当第2四半期連結累計期間において自己株式が2,304百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が5,215百万円となっております。

(セグメント情報等)

#### 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

#### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	砂糖事業	フード サイエンス 事業	不動産事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	40,393	9,701	925	51,020	-	51,020
セグメント間の内部 売上高又は振替高	26	64	20	111	111	-
計	40,419	9,765	946	51,131	111	51,020
セグメント利益	793	370	457	1,621	-	1,621

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

#### 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	砂糖事業	フード サイエンス 事業	不動産事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	45,978	9,900	981	56,861	-	56,861
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	72	32	127	127	-
計	46,001	9,973	1,014	56,988	127	56,861
セグメント利益	2,319	286	472	3,078	-	3,078

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	117円71銭	63円90銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	3,143	1,677
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	3,143	1,677
普通株式の期中平均株式数(千株)	26,702	26,245

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2019年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次の通り決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....642百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....25円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月6日

(注) 2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月7日

三井製糖株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 北村 崇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山田 知輝 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三井製糖株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三井製糖株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。